

かながわの風

37
November
2022

<http://www.kacsw.or.jp>



会員番号(No.48447):上山 由美子氏 撮影

コロナ禍臨時特集 第7回

社会福祉士とわたしp.6

- 「見える化」と「今どき化」
～成り手不足の解消に向けて～ p.2
- 最年少会員に聞く p.3
- 神奈川県社会福祉士会は
神奈川県DWATIに協力しています p.4
- 多文化ソーシャルワーク委員会の活動報告 p.5
- 2022 (令和4) 年度 理事会報告 p.7
- 公開講座・研修情報 p.8



「見える化」と「今どき化」

～成り手不足の解消に向けて～

横浜支部 伊藤 順

高齢化や成り手不足と言われている自治会組織で、私は現役子育て世代であるにもかかわらず副会長をしている。今年で連続8年目となる。なぜ私が自治会活動をしているかと言えば、輪番制で役員になったわけでも、誰かに懇願されたわけでもない。私は、自らの住む地域の住民とともに、自分の目で現状や課題を確認したいと考えたからだ。

まず、私が自治会役員を引き受けて真っ先に感じたことは、役員を担っている人たちの年齢の高さだ。年長者が築き上げてきた住民ネットワークは、地域に住む住民同士の親睦や、防災・防犯活動が主である自治会活動にとって非常に有用なものである反面、新たに転入してきた人や若者にとっては敷居が高く、参加しづらい状況を生み出しているように感じた。因みに、自治会のイメージを知人らに訊ねると、「何をやっているかわからない」、「役員になったら大変そう」、「時間の制約を受けそう」といった負のイメージのみが返ってきた。

なお、年長者はどのように考えているのだろうと、私より三まわりほど年上の自治会長に、組織の長である会長職について訊ねてみた。以前であれば会長は名誉職であり、成り手は多かったという。しかし、IT化の進んだ昨今、必要な情報はホームページで確認しなければならないことが多く、補助金申請等の書類作成も複雑化していることから、パソコンやスマートフォン等の不得手な高齢者にとっては負担感が増しており、役員を引き受けづらい状況になっているようだ。

つぎに、自治会役員と地域に住む住民とを「集団」として考えてみると、同じ地域に住む住民同士は一つの「内集団」に属しているが、その中に存在する自治会役員は小さな「外集団」として位置付けられているといえるだろう。それゆえに、各「集団」の間には多少なりとも溝が生じており、お互いの実情が曖昧模糊なうえ、けん制し合っているように感じる。

このような状況の中、自治会役員と地域住民との間の溝を埋めるためには、自治会活動を役員のみで評価し終わらせるのではなく、自治会に無関心な人や忌み嫌う人を含むすべての対象住民に対し、「見える化」を行う必要があるだろう。なぜなら、地域住民が持つ先入観や古いままの情報によって、自治会組織への誤認識が生じている可能性があるからだ。

最後に、自治会組織は住民主体の生き生きとした魅力ある組織でなければならない。そのため、前例を踏襲するばかりではなく、地域の実情やライフスタイルに応じて創意工夫をし、自治会そのものが親近感のある組織へと変化する「今どき化」も必要と考える。

そういった意味では、社会福祉士会組織と自治会組織とが、ともに成り手不足の組織だとするならば、組織の「見える化」や「今どき化」が解決の糸口になるのではないかと私は思う。

充実した時間と居場所を提供できる社会福祉士になりたい

湘南東支部 伊藤 春彦

こんにちは。湘南東支部の伊藤春彦と申します。この度、かながわの風特集記事執筆の機会を頂戴し、若い会員からみた社会福祉士会の魅力について述べさせていただきます。記事を通じて先輩ソーシャルワーカーのみなさまと繋がるきっかけになれば幸いです。

社会福祉士会に入会したきっかけは、私の恩師である井口健一郎さんに入会を勧められ、「新しい福祉を創るためにともがなぼう」と言葉を頂き、社会福祉士としてスタートに立とうと決意したことです。社会福祉士会に入会することは社会福祉士の倫理綱領を遵守する具体的な方法であり、研修や社会福祉士会の活動に参加することが倫理綱領前文にある「多様な人々や組織と協働すること」にあたると思っています。また今年度から始まった“30歳以下の新会員入会料免除”は入会を後押ししてくれました。若い会員を代表してお礼を申し上げます。

入会してよかったことは、多様な業務を行っている社会福祉士と繋がりができ、また社会福祉士として居場所があることはとても励みになります。社会福祉士は本当に色々な方がいて、“人”が魅力です。社会福祉士会に期待していることは、会の取り組みを社会に伝えることであり、情報発信を通して多様な人々、組織と協働していける環境づくりです。これからの時代は研修を一般企業と合同で行う機会があるかもしれません。時代の中で高まる福祉ニーズに応えられるように取り組まれることを期待します。

社会福祉士として今後取り組んでいきたいことは、サードプレイスとパラダイムシフトを創ることです。サードプレイスとは、家庭、職場・学校とは異なる第三の場所という意味の言葉です。パラダイムシフトとは、それまで当たり前だと考えられていたものの見方や考え方、価値観が劇的に変化することを表した言葉です。つまり居場所づくりを通して、「こうじゃなくちゃいけない！」という物事を“やさしく壊していく”ことが私の取り組むことです。具体的には社会福祉士の専門性を活かしたイベントの企画、こども食堂を基盤とした地域づくり。また社会福祉の啓発を様々な形で行うことです。

私は充実した時間と居場所を提供できる社会福祉士になりたいと思います。社会福祉士会の活動が充実することで、家庭・職場とは異なる居場所で繋がり、共に自己研鑽に励み、変化の激しい時代の中でソーシャルワーカーのみなさまと共に新しい福祉を創っていきたくと思っています。



伊藤春彦(いとうはるひこ)さん

生年月日2000年1月12日。山羊座辰年。東京都八王子市南大沢出身。

自主レーベル・Sweet Spring Record代表。

運営理念は“すてきな時間・空間を創りだす”。

HP:<http://sweetspringrecord.com/>



神奈川県社会福祉士会は

かながわディーワット

神奈川DWATに協力しています



大規模な災害が発生すると、高齢者、障がい者、子どもなどの、災害時に配慮を必要とする人が長期の避難生活を余儀なくされ、必要な支援が行われない結果、体調の悪化や要介護度の重度化、さらには災害関連死といった二次被害が発生するリスクが高まります。

こうした中で、避難者の福祉ニーズを的確に把握するとともに、可能な限りそのニーズに対応し、生活機能の維持を支援していくため、神奈川県では令和2年度に「かながわ災害福祉広域支援ネットワーク」の構成団体が協力し、福祉専門職による「神奈川県災害派遣福祉チーム(神奈川DWAT)」が発足しました。

神奈川県社会福祉士会ではこれまで43名の会員を推薦し、協力法人からの登録を合わせると65名の社会福祉士がDWATチーム員として登録しています(令和4年8月1日現在)。

神奈川DWAT Q&A

DWATは何の略ですか？

Disaster Welfare Assistance Teamの略です。災害時に医療支援を行う災害派遣医療チーム(DMAT)の福祉版といったところです。

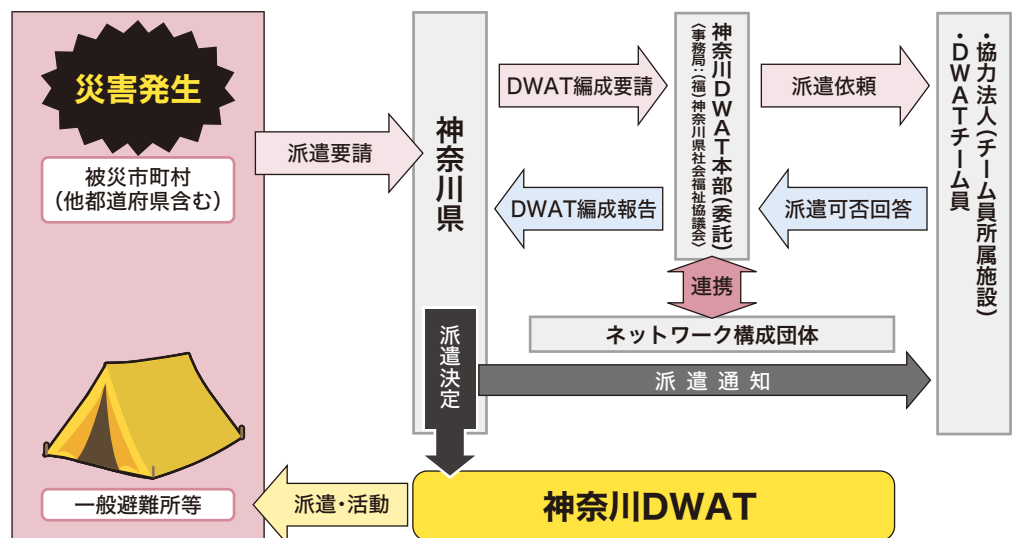
神奈川DWATは災害時にどのような活動をするのでしょうか？

一般避難所などにおいて、要配慮者のスクリーニング及び福祉避難所等への誘導や要配慮者の心身状態の把握、日常生活上の支援、相談支援、避難所内の環境整備などを行います。

神奈川DWATはどのような災害の時に活動しますか？

災害救助法が適用又は適用される可能性がある災害が県内外で発生し、避難所等を設置する被災市町村や国からの派遣要請があった時に活動します。

災害救助法が適用される災害とは、多くの住宅が被害を受けた場合や、多くの方が亡くなったり怪我をされたりするような大規模の災害です。



社会福祉士が神奈川DWATチーム員として登録するにはどのような方法がありますか？

福祉施設等にお勤めの方で、所属する法人が神奈川DWATの協力法人になっている場合、所属先の職員として登録できる可能性があります。協力法人になっているかどうかについては、お勤め先にご確認ください。

神奈川県社会福祉士会の会員で、個人としての登録を希望される場合は、神奈川県社会福祉士会の登録事前研修を受講していただき登録することもできます。登録事前研修のアナウンスはホームページなどで行いますので、ご希望の方は是非チェックしてみてください。

なお、神奈川DWATチーム員として登録するには、登録研修の受講が必要です。

神奈川DWATについて詳しくは、神奈川県のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n7j/saigai-fukushi.html>

かながわ災害福祉広域支援ネットワーク

検索

多文化ソーシャルワーク委員会の活動報告



副委員長 木村 有孝、野田 有紀

多文化ソーシャルワーク委員会は、2020年度、「国籍、民族等の異なる人々、外国に由来を持つ人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことを実現していくこと」を目的に発足しました。

その目的を達成するため、毎年、研修やスタディーツアー等を開催しており、その一部を報告します。

神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)主催の事例検討会への協力

あーすぷらざは、神奈川県外国籍県民・相談機関連絡会を企画運営しており、当委員会も2019年から出席しております。

あーすぷらざが主催する外国籍県民相談等に関する研修会では、多職種連携の学びと実践を強化するため、本年度、事例検討会を開催することとなり、当委員会から講師派遣をさせていただきました。

当日は、井口健一郎委員が「地域連携のための事例検討会 ～外国籍県民の包括的支援に向けて～」と題した講演後、3つの事例検討を行い、当委員会からもファシリテーターとして協力しました。

来年1月開催予定の連絡会でも同講師による講演を予定しております。

【プログラム】

1. 講義「多職種・多機関連携のための事例検討会」
2. ワーク 模擬事例検討会

【検討会の事例案】

- ・高齢者福祉
- ・ひきこもり
- ・高校進学

いぐち けんいちろう

【講師】井口 健一郎 氏

社会福祉法人 小田原福祉会 理事
桜美林大学 非常勤講師
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師
元小学校教諭



シンポジウム「外国人支援におけるネットワークづくり」の主催

三福祉士会の日本及び神奈川県レベルでの活動を共有し、連携の可能性を考える機会とすること、県民にどんな場面でどの専門職に相談すればいいかを伝えることを目的にシンポジウムを開催しました。

シンポジストは、①日本介護福祉士会・国際介護人材支援チームの友次勝彦さん、②日本精神保健福祉士協会・多文化共生プロジェクトの諸井一郎さん、③神奈川県社会福祉士会・多文化ソーシャルワーク委員会の野田有紀で、それぞれ職能団体としての活動紹介後、ネットワークづくりのポイントと課題、社会資源の発掘、開発、情報発信への取り組み等についてもお話し頂きました。



多文化ソーシャルワーク委員会は、今後も公益社団法人として、国際交流機関やボランティア団体等と連携し、県民の福祉向上に努めて参ります。

社会福祉士とわたし



横浜支部 小藪基司さん

昭和から平成にかけて東京都三鷹市に放課後等デイサービスの先駆け的な事業を、それも純粋に民間の力で行っていた花岡児童総合研究所という児童福祉の支援機関がありました。平成3年の夏、経済学部3年生だった私は、障害児のサマーキャンプのボランティアという形でこの花岡児童総合研究所の取組に参加をし、代表の花岡尚人先生やスタッフの皆さん、そして社会福祉士のSさんに出会いました。このときに私は初めて人をケアすることを職業としていて、その専門家としての社会福祉士という専門職を驚きと共に知ったのでした。

驚きというのは、社会福祉士のSさんをはじめとしたスタッフの皆さんの子どもたちに対する真摯さでした。キャンプでは子どもたちが寝静まった後にスタッフとボランティア全員で一日の振り返りと、一人ひとりの子どもたちのためのケースカンファレンスが開かれ、私たちボランティアへのスーパーバイズも行われたのです。「ああ、一人の人間に対してここまで大人たちが真剣に話し合いを行うんだ」と私はケアを職業とする人たちの畏敬の念で眺め、人のために最善を尽くす姿勢に、当時の私は魂が震えました。

それから随分と年月がたち、神奈川で児童福祉とは少し違う道を歩み始め、現在では横浜市青葉区にある地域ケアプラザに身を置いています。時折思い出すのはあの夏の体験です。

平成から令和の時代になり、今地域ケアの現場では3年に及ぶコロナ禍を経て様々な変化が起きつつあります。私たちの社会は地域包括ケアの推進と地域共生社会の実現に向けて様々な挑戦を行ってきましたが、3年に及ぶ個と個が距離を置く生活様式は、社会の構造を静かに変えてしまった可能性があります。私たちのケアプラザでは地域の方からの相談が減り、逆にプロの支援機関からの相談が増えた、という現象が記録から読み取れており、一時的にせよインターク時の相談構造が変わったことを示唆する現象も起きています。

このような変化の中で私が危機感を覚えているのはケアが必要な孤立した人へのケアです。ここでいうケアが必要な人とは、要介護高齢者や障害者を含みつつ、もっと幅広い人たちのことです。制度的にはなかなかケアの対象にはならないけど生きづらさを抱えている人と言い換えることもできます。専門職による真摯な関わりを必要としている人たちが潜在しているのを肌で感じています。コロナ禍を経て後戻りはできない新しい状況において、新しい形でケアを充足させるためにはどうしたらよいか？一つ一つのケースに向き合いつつ、糸口を探している日々です。

〈2022(令和4)年度 理事会報告〉



■臨時理事会 2022年5月17日(火) 19:30~20:00 [オンライン会議]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 12名 監事: 吉田 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(4月分)…入退会審査→入会104、転入1転出2、退会12、4月末会員数3,103、県内登録者数19,482、組織率15.93%。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…4/1登録者数672、内家裁名簿登載者数615 4月推薦依頼30件、法人後見新規開始。 議案3: 2022年度神奈川県生活困窮者自立支援制度都道府県研修事業委託契約…昨年同様で契約。 議案4: 規則改正…細則5号 定着センター非常勤職員のフレックスタイム制に関する細則改正。 議案5: 西湘支部幹事追加…3名を追加。

■通常理事会 2022年6月7日(火) 19:30~20:00 [オンライン会議]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 15名 監事: 吉田・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(5月分)…入退会審査→5月入会37、転入1転出0、退会13、5月末会員数3,128、県内登録者数19,776、組織率15.82%。キャンペーン対象6。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、名簿登録・法人後見状況…5/1登録者数 668、内家裁名簿登載者数612。5月推薦依頼32件。名簿登録審査565名を承認。 議案3: 2021年度本会事業報告案 議案4: 2021年度本会決算報告案 議案5: 本会監事変更 議案6: 代議員総会議事 議案7: 2022年度はばたき委託契約 議案8: 役員賠償責任保険2022年度の契約(更新) 議案9: 規則改正…基準第3号 広告等の同封・掲載に関する基準改正案。

◆2022・2023年度理事・監事について◆〈代議員総会の中で理事承認〉 2022年6月26日(日)

会 長: 隅河内司

副会長: 田中晃・金井直子・山崎智美

理 事: 谷川謙・露木敏夫・和田貴子・岡本早織・深澤亮・横山昂・小林麻衣子・小島操子・佐々木千賀子
菅原聡・菅野善也・徳田千春・松下圭一・吉田勝利

監 事: 別府政行・東海林崇

■臨時理事会 2022年7月19日(火) 19:30~21:25 [オンライン会議]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 18名 監事: 別府・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(6月分)…入退会審査→6月入会22、転入1転出3、退会0、6月末会員数3,148、県内登録者数19,800、組織率15.90%。キャンペーン対象3。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…6/1登録者数 667、内家裁名簿登載者数611、6月推薦依頼43件。 議案3: 規則改正・制定…①規則36号権利擁護・成年後見事業における名簿登録に関する規則改正案 ②規則63号成年後見活動における情報共有に関する規則制定案。

■臨時理事会 2022年8月5日(金) 20:00~20:47 [オンライン会議]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 17名 監事: 別府・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 倫理委員会の審査結果報告を受けて理事会としての態度決定…倫理委員会結果を受けて理事会対応の検討。 議案2: 規則改正…事務経費の免除に関する規則 規則改正適用時期確認。

■通常理事会 2022年8月16日(火) 19:00~20:40 [福祉保健研修交流センター ウィリング横浜11階 多目的室]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 15名 監事: 別府・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(7月分)…入退会審査→7月入会3、転入1転出0、退会3、7月末会員数3,149、県内登録者数19,817、組織率15.89%。キャンペーン対象1。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…7/1登録者数 666、内家裁名簿登載者数564、7月推薦依頼30件。 議案3: 懲戒処分に関する審査及び理事会としての処分案…臨時代議員総会9月25日での議事案を検討。

■通常理事会 2022年9月13日(火) 19:30~21:15

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 17名 監事: 別府・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(8月分)…入退会審査→8月入会4、転入1転出2、退会0、8月末会員数3,152、県内登録者数19,824、組織率15.90%。キャンペーン対象2。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…8/1登録者数 669、内家裁名簿登載者数567、8月推薦依頼32件。 議案3: ばあとなあ神奈川名簿登録削除 議案4: 組織率向上委員会委員追加委嘱…追加委員検討。

公開講座 & 研修会

お申込み・
お問合せは

電話：045-317-2045

FAX：045-317-2046 e-mail：web@kacsw.or.jp
公益社団法人神奈川県社会福祉士会 事務局 までお願いします。

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
12	9	19:30	21:00	たまひよユース	20代、30代会員が語り 仲間作のための交流の場	Zoom	組織率向上 委員会	20代 30代 県士会会員	無料
未定				藤沢市との合同研修	ヤングケアラーを知り 共に考える②	（ハイブリッド） 会議室＋ オンライン	湘南東支部	湘南東支部 会員	無料

開催を予定しております研修・公開講座等は、新型コロナウイルスの感染状況により、やむなく開催を中止、あるいは延期する場合がございます。ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。
なお、最新の状況につきましては本会のホームページをご確認ください。

<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/234/>

神奈川県社会福祉士会 研修 講座

検索



BEST SHOTを
お待ちしています!



表紙写真大募集!!

あなたの写真で「かながわの風」の表紙を飾りませんか?

広報委員会では「かながわの風」の表紙を飾る写真を募集しています。

テーマ 神奈川の風景

カメラ デジタルカメラで、一眼レフやコンパクトカメラ、スマートフォンなど機種は問いません。

画素数 3024×4032ピクセル以上

送信先 koho@kacsw.or.jp

《ご注意》

- 写真のファイルサイズが大きい場合は、クラウドストレージなどをご利用ください。送信方法がご不明な場合は、左記メールアドレスまでご相談ください。
- 人物を被写体にしないでください。人物が個人を特定できるサイズで写っている場合は、同意を得た場合でも採用しない場合があります。
- 採用する場合は、掲載写真前にメールにてご連絡を差し上げます。不採用の場合はご連絡を差し上げませんので、ご容赦ください。

編集委員も 同時募集中!



本会会員の皆様の中で、広報制作に興味・関心がお有りの方は、事務局までお知らせください。是非、新しい「風」づくりに参加をお願い致します。なお、広報委員会は原則として奇数月の最終週の火曜日、19:00～21:00に開催しております。

(広報委員長：日向 明)

編集後記

今秋、国民的人気番組である「笑点」で大喜利メンバーとして活躍した6代目三遊亭円楽が72歳でその眼を閉じた。テレビの向こう側では「毒舌」「腹黒」キャラを演じていたが真の姿は誰からも慕われそして愛された人でもあった。心からご冥福をお祈りする。

古典落語の中に先代の円楽が十八番にした「藪入り」という噺がある。亭主「野郎、金坊は大きくなったろうな」、女房「自分の目で見てごらんよ」、亭主「目をあけると涙がぼろぼろ出てきていけねえ。おめえ代わりにみてくんねえ」と続く。奉公先から戻る我が子を想い、目を開けていられない父親の姿がそこにある。その昔商家の奉公人は年に2回(正月と盆)だけ、お暇をもらい実家に帰るのを許された。歳時記と古典落語に静かに佇む「藪入り」、その響きが今年ほど胸に思い出されるのは、子供や若者が犠牲になる悲しいニュースが続い

たからであろう。富山県2歳、千葉県7歳、韓国梨泰院で女性お2人が…。臉の裏に映る悲しい知らせに言葉が出ない。「皆様の心に幸せな記憶だけが降り積もる1年でありますように」と毎年願っているが、思うようになったためしが無い…。

文藝春秋社を創設した実業家でもある小説家の菊池寛は次のような句を残している。「死者老いず生者老いゆく恨みかな」。若くして目を閉じられた方々はその時の笑顔のまま、写真や残された者の心の中で生き続けるに違いない。時の流れは美しく、また時に残酷なものでもあるらしい…。

少しお早目ではありますが、来年こそ皆様の心に「幸せな」記憶だけが降り積もる1年でありますことをお祈りし、今号を締めくくりたいと思う。

(広報委員長：日向 明)